

■平成 22 年度 第二期 (8/23~9/3) インターンシップ技術講習生の受入れ

技術講習生のプロフィール	技術講習で体験したこと、感じたこと	今後の抱負など
<p>①館山隆也 弘前大学 3年</p> 	<p>・ 2 週間の間に、プログラム構築、魚類行動実験補助、GIS リモセン実習、調整池の水質調査、コンクリート水路の劣化調査に従事した。</p> <p>・ 研究者は解析を視野に入れて、かなり細かな変化も見逃さず、ものの見方や考え方はとても勉強になった。</p>	<p>農村工学分野の研究は多岐にわたっているが、いずれも基礎知識を習得しなければ務まらないと感じた。学部 4 年で充実した研究が行えるように、基礎知識をしっかり学んでいきたい。今後とも、農工研の方々と交流を続けさせていきたい。</p>
<p>②原部由樹 茨城大学 農学部 地域環境科学科 3年</p> 	<p>・ (実習内容は同上)</p> <p>・ 初めて経験すること、大学で学んだことと使うことの違いを感じることに、連続だった。また、職業としての研究に触れることができ、これからの人生を考える大変良い機会になった。</p>	<p>指導いただいた研究者が、何年も地道に研究を積み重ねているという姿を見て、私もこれからは自分の考えをしっかりと持ち、それを貫き通して生きていこうと思いました。</p>
<p>③柴崎真理子 九州大学 3年</p> 	<p>・ (実習内容は同上)</p> <p>・ 複数の研究室で実習を受けたので、内容が豊富で毎日が新鮮だった。プログラミングや水理学の知識が不足して実習が進まないこともあったが、自分の関心が高い研究に触れたり、GIS を使った実作業を行ったり、調査、データ採取、分析という一連作業を経験したり、貴重な時間を過ごせた。</p>	<p>2 週間の実習を通じて多くのことを学び、多くの研究者や同じ時期に集まった他の大学の実習生と出会い、今後の研究室の選択や将来の就職先について考える良い機会になった。今後の将来設計に、しっかりと活かしていきたい。</p>
<p>④柳 雅行 北海道大学 農学部 農業工学科 3年</p> 	<p>LCC 算定ソフトを使った解析、ストックマネジメントの考察の他に、他の実習生と合流して、コンクリート水路の鉄筋位置の測定や調整池の水質調査などを行った。</p> <p>研究機関は閉鎖的なイメージを持っていたが、研究者の方々の指導は丁寧で、質問には気軽に応じてくれ、いろいろな話を聞かせてもらい、有意義な実習となった。</p>	<p>実習を通じて、物事を分析的にみる力、自分から興味のあることを積極的に調べる姿勢などの大切さを学んだ。また、農業土木が今どのような問題を抱えているかなど、大学では会得できないような知識を吸収することができた。分析する力が向上したので、今後の学びに役立てていきたい。</p>
<p>⑤宇尾卓也 東京大学 農学部 生物・環境工学科 3年</p> 	<p>地中レーダーの電波伝播速度が媒質によってどのような影響を受けるかを観察し、また、伝播速度の違いを利用した探査や、地中レーダーと GPS を連動させる探査を行った。教科書に示された手順を追って答えを確かめる方法と違い、仮説を立てて実際に検証することができ、新鮮な体験だった。</p>	<p>2 週間という短い期間だったが、一時的にも研究者という立場で作業に当たることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。</p>